

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和 4 年 7 月 27 日～28 日に令和 4 年度第 1 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和 4 年 8 月～12 月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元に本県海域での予報を報告します。

■ 海 況

黒 潮：A 型基調で推移し、主に伊豆諸島海域の西側を北上する。
 （説明）2017 年 8 月に大蛇行になり、4 年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
 伊豆諸島海域は、概ね「高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度
 高 め：平年値+1.5℃程度
 極めて高め：平年値+2.0℃程度

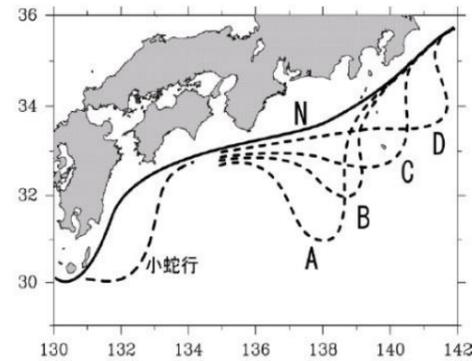


図 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ）

来遊量：低水準であった前年を上回り、平年を大きく下回る。
 （説明）マサバ太平洋系群の資源量は、2000 年代以降増加していますが、神奈川県沿岸の定置網や一本釣りでの漁獲量は、資源量の増加に反して、ここ数年減少しています。

これまでの研究から、東京湾～相模湾におけるマサバ漁獲量は、①当年 6 月の伊豆大島周辺の塩分、②当年 5 月の三崎周辺の定置網のマサバ漁獲量、③ 当年 8 月の東京湾の水温と関係があると考えられています。今年得られたデータ①②③に基づき、2022 年 8～12 月の来遊量を予測したところ、低水準であった前年を上回るものの平年を大きく下回ると見込まれました。

魚体サイズは、1～5 月に県漁業調査指導船「江の島丸」が伊豆諸島周辺で行った調査から、今漁期は尾叉長 30～34cm（体重 300～470g）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：低水準であった前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010 年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

本県沿岸域では、4～6 月にかけてヒラゴ～小羽サイズ（0 歳魚）を主体に来遊がみられ、主要定置網では平年（過去 5 年平均）の 2.4 倍の漁獲がありました。

2022 年 8 月～12 月は、近年の傾向からヒラゴ～小羽サイズの 0 歳魚が漁獲の主体となるでしょう。本県沿岸域の下半期の 0 歳魚の漁獲量は、相模湾の春シラス漁におけるマシラス漁獲量と関係が認められます。今年のマシラス漁獲量は前年同様低水準であったことから、今漁期の漁獲量は低水準であった前年並と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：低水準であった前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、特に沖合域における減少が顕著になっています。魚体サイズは体長 12cm 以上の大型成魚が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2022 年 8 月～12 月は、近年の傾向から体長 7～9cm の未成魚を主体に漁獲されるでしょう。黒潮大蛇行が継続している 2018 年以降、主要定置網の 8～12 月漁獲量は数トンのレベルに留まっています（秋季に一時的に解消した 2020 年を除く）。海況の項目で解説したとおり、黒潮大蛇行は今後も継続すると予測されることから、今漁期の漁獲量も低水準であった前年並と考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年並。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は近年低位・減少傾向です。

今年は上半期のマアジ総漁獲量が前年、平年ともに大きく上回り、0 歳魚（銘柄ジンダ）の漁獲量は約 1.0 トンでした。0 歳魚の漁獲量から、2022 年 8 月～12 月のマアジ漁獲量は前年並になると考えられます。

